

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社 聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14-5		
自己評価作成日	平成25年10月 5日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosvCd=2190200077-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成25年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣人愛の理念に基づき、地域密着型の介護施設として、自治会の役員さんや近所の方たち、家族の皆様方に支えられて3年が過ぎました。(3周年記念として映画会を開催) この夏は猛暑で聖恵会の2介護施設では熱中症で倒れることのないよう、また利用者の皆様が病気にからず暑い夏を乗り切れるよう「うなぎツアー」を計画し、ミキサー食の方にもうなぎを味わって頂けるよう職員一同で努力しました。また、老人と子供たちのふれ合いを通して高齢者の皆様が「生きる喜びと元気を養えるように」との願いの基に「花の日の子どもたち20名訪問」「地域中学生体験学習」とのふれあいの機会を持ちました。地域との交流にも力を入れて地域文化祭への出品、芸能祭のカラオケ大会出場等継続して毎年参加しております。私共小さな施設はほとんどの行事はハウスもケアセンターも合同でしています。恵みハウスでは介護を必要とされる皆様方に温かい家庭的な環境の中で愛と思いやりの介護・支援ができるよう努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設の小規模多機能事業所のホール(食堂と居間)を使って「さつま芋パーティー」が開かれ、ホームからも数人が参加した。ホームの菜園で収穫したさつま芋を材料として使い、地域のボランティアグループから7名の応援を得て、数々のさつま芋料理が食卓に上がった。
利用者、家族、職員とその家族、体験学習に来た者を含む地域の小・中学生、ボランティア、往診に来たマッサージの先生、そして評価員が2名と、実に60名がさつま芋料理のご相伴にあずかった。利用者が自慢の“のど”を披露し、カラオケや詩吟の朗詠には、家族の涙を誘う場面もあった。
飛び入りのマッサージの先生の「昂(すばる)」の熱唱で幕を閉じたが、地域の支援(交流・連携)の大切さを再認識する一日となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務についての話し合い時、玄関、応接室など至る所に「隣人愛」の理念が掲げられているのに立ち帰り隣人に仕えることに主眼をおいていることを確認し合っている。	法人理念として「隣人愛」を掲げており、併設の小規模多機能事業所の利用者をも合わせ、2事業所が分け隔てのない支援を展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の避難訓練や芸能祭などに誘っていただき、また当施設の畑の収穫や土おしなど自治会役員さんや近所の方たちが手伝って下さる。5月の「3周年記念」には沢山の方が集ってくださった。	地域住民の助けで、今年もさつま芋の収穫にこぎつけた。調査日当日、隣接の小規模多機能事業所のホールを使って「さつま芋パーティー」が開催され、ここでも地域のボランティアグループ7名の応援があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様のご家族、近所の方、利用者様が通われる教会の「認知症」についての学びなど情報交換や情報共有をしたり、おやつツアーなど外出時には周りの方たちにつなげたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には特に自治会の方々が関心を持ってくださり、役員さん方が催し事に誘って下さったり、利用者さんになごんで頂けるようレクボランティアの方を紹介して下さったりしている。	併設の小規模多機能事業所と合同で運営推進会議を開催しており、2事業所からの現況報告の後、懸案事項の検討や意見交換を行っている。ただし、「目標達成計画」への言及がない。	3項目の目標設定に対し、完全に達成したとは言えない状況である。会議メンバーをモニター役とし、取り組みの進捗報告や意見交換を行って、達成への道筋を見出してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議には市役所の方が気軽に声をかけて下さり、パンフレットなどで他の施設のことなど例に挙げて当施設の実情に助言をして下さっている。	運営推進会議には、必ず市の職員が参加しており、事業所の状況は伝わっている。疑問点がある場合や制度変更時の不明点は、即座に行政に問い合わせることとしており、関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全を守るにはどうしたらいいのか、どうしたら自由を束縛しないでいられるのか、職員と共に話し合っている。ケアセンターとハウスとを自由に行き来して頂き、職員間で連携している。職員が一人対応時には施錠している。	職員(管理者等)のいる事務室は小規模多機能事業所側にあり、ホーム玄関には目が届きにくい。通常は施錠されていない玄関の扉も、利用者の安全が確保できないと判断した場合には施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に全く反することであり、利用者様との信頼関係を第一としているので、ケアに当たる職員が交互に休憩をとってストレスを溜めないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見制度を利用する意思を固められた親族の方との関わりで必要性和困難さとかかなりの時間がかかることなど職員と共に学ばせて頂いているとともに今後の必要性をもそれぞれに感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に今回契約内容を市役所と相談しつつ一部変更し、各家族様に十分に説明させていただいているし、質問にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で発言していただいたり、日常面会に来られた時、電話やメールでも要望を聞かせてもらっていて、その都度説明して理解してもらっている。	遠隔地に住む家族も、都合をつけてホームを訪問している。職員は家族からの情報収集の機会ととらえ、意見や要望を聞き取って支援に反映させようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、事あるごとのリーダー会、業務についての話し合いを持っているが、外国籍の職員には文化の違いや言葉使いの機微が理解できていない所があり、苦慮している。	文化の違いや言葉(文字)の難しさを、外国籍の女性職員たちが必死に克服しようとしている。電子辞書や携帯電話の辞書機能を駆使し、介護記録や自らの意思を的確に伝えようとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準を達成することを旨とし、人員配置を手厚くし、労働環境の改善をはかっている。OFJTで教育の場を与えたり、有給をとる機会や産休、育休をとる機会を与えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で一緒に仕事に当たる機会が多々あり、工夫をし合ったり、マスコミや本や講演会などで得た知識や方法を試して工夫を共有している。また学びたい職員には積極的に研修に行ってもらいソフト作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者といつも交流しているわけではないが居宅のケアマネ会に入れてもらって情報を得たり、勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで得た情報を職員と共に吟味し、まず信頼関係を築くことがまず大切であることと守秘義務を守ることを特に申し合わせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に家族様が不安に思われないう、また困られたことがあったらいつでも気軽に話していただけるよう機会をとらえて声を掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人家族にまず何が必要か、その為には当施設が妥当かどうか話し合い、当施設となれば無理のない利用となるよう連絡し合って進めて行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ハウスには特に医療を必要とする方が数名おられる。それ以外の方とは職員と共に洗濯ものたたみやゴミ袋の記名をしてもらったり、新聞整理をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力が無ければ介護は困難を極めますので些細な事でも日頃から家族の方に連絡を取り、必要に応じて来ていただき、話し合うことにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	寝たきりの利用者様の昔のご友人をお連れした。またお若い頃作られた袋を補聴器入れにして夜間預らせていただく約束ができたり、普通勤された道路をドライブしたりと懐かしい思いをしてもらっている。	目が不自由な女性利用者は、かつて隣接の小規模多機能事業所を利用していた。彼女は、日中を住み馴染んだ小規模多機能事業所で過ごし、何一つ不自由なく暮らしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当施設のごみ袋をたたむひと、たたんだ袋に記名する人と連携をとってもらったり、言葉が中々出ない人に毎日話しかけたり、歌ったりして下さって発語が可能になったりと支え合っている面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に行かれた方をたずねて覚えていて下さったり、また急死されたかたのご家族をたずねたり、ターミナルにあるかたの病院をたずねて見舞ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを重ねるごとに利用者様を少しずつ理解できることもあるが真の思いや意向を理解できるよう、できるだけ朝方や夕食後に個人的に話を聞かせてもらっている。家族が来られた時には話を伺って利用者様像の把握に努めている。	高齢化、重度化が進行し、利用者が思いや意向を表出する機会が減っている。「目標達成計画」に取り上げたが、利用者との日常の会話やしぐさから意向をつかむに至っていない。	「すぐに実施できること」、「介護計画につなげて取り組むこと」等、情報の処理ルールの構築を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	遠方の家族が来られた時、面会に来られた時、利用者さんとお茶のひと時など話を聞かせてもらっている。これを続けないと立体的に分かってこないののでできるだけ現場に行くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、申し送り、実際関わってみて一人一人のできることや困難な事をふまえていくとともに一緒に広告たたみなどしながら昔の輝いた頃の話聞かせてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ADL中心のプランとなり易く、一人一人の真の思いに気付けるようさらに関係者との話し合いの結果を洞察して介護面でのプランがより本人の思いにそえるよう努めていきたい。	ADL中心であった介護計画を、意識的に「思いや意向をかなえる」プランへ変えようとの意識はある。ただし、職員への周知・理解には温度差があり、標準的な取り組みとはなっていない。	「個別ケア」実践のために思いや意向を把握することは必定であり、全職員の共通理解が必要となる。ミーティング等によって、意識付けを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の半分近くが外国籍であり、言葉や文化の違いが大きい懸念に日本語に挑戦している。記録を読むだけでは理解が困難な為記録の形態を質問形式にしてみた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外国籍の職員でも利用者とは和やかにコミュニケーションがとれていることが多々ある。真のニーズを抽出できるようスタッフとのコミュニケーションも大事にしてその背後にある利用者像を推し計るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の通う教会の人たちがして下さる送り迎え、自治会の行事、散歩や外食先での地域交流、レクボランティア来訪で生活に楽しみを持っていただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックが基本であるが専門外の事には緊急時のみこちらから予めご家族から聞いている医療機関にクリニックターの紹介状持参でお連れしている。	隣接のクリニックがホームの運営母体であることから、全ての利用者がかかりつけ医として受診している。調査日当日も、職員が車を押して通院介助する姿があった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜にクリニックターと管理職との話し合いを持ち介護面でのアドバイスを受けたり利用者様のいつもの状態や家族のことについても報告して医療面介護面合わせたケアについて考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護情報を提供するとともにできるだけ見舞い、情報を得て置き、退院時の診療情報をドクターより情報提供してもらったり、退院まえのカンファレンスに参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時にご本人、特にご家族に救命救急に関する同意書を取り、ドクターの指示を受けながら支援しているとともに常にご家族と相談しながら、一つ一つ理解を得ながら進めている。この時ヘルパーでは医療行為ができない事を了解してもらっている。	ホームとしての支援の限界を利用開始時に伝えており、利用者・家族から方針についての同意書を取っている。基本的には、利用者・家族の意向に沿って、可能な限りの支援をしようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず併設のクリニックターに報告し、現場に居る職員(ナース、ヘルパー)が救命救急処置をする。ミーティングでは予想される危険について随時話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下通報訓練、消火器取扱い訓練を実施し、3月には施設で防災訓練、10月には地域の防災訓練に参加した。大きな災害には当施設が避難所として協力することになっている。	市の社会福祉協議会からの依頼を受け、大規模災害時の緊急避難所としての役割を持つこととなった。地域の合同防災訓練には利用者と共に参加する等、防災に関する職員意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様情報の守秘義務はいつもミーティング時に申し合わせている。気楽なおしゃべりにも差別語がないか、情報をもらしていないか注意をするよう常に申し合わせている。	昼食時、目の不自由な女性利用者への言葉かけには、特別の配慮が見られた。職員がメニューの内容や食器トレイの中の場所を丁寧に伝え、利用者のハンディキャップを最小限にとどめていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	退屈されないよう声掛けして利用者様の思いを押し量ったり、いろいろなレクを提供してそれぞれ無理のない様に自由に自分を出して頂けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴、背景、思いなど新しい発見をしたときはスタッフ間で共有できるようにスタッフ間のコミュニケーションも大切にしている。が希望に添えているかどうかはいつも課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんにお連れしたり、移動が困難な方やこだわりが有る方には訪問の美容師さんが好みにあうようカットして下さっているし夜勤が朝整容時に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で収穫したカボチャ、サツマイモ、キュウリ、また近所から頂いた里芋などで利用者様に料理のアイデアを伺って工夫したり、ホットプレートを皆さんで囲んで、タレも選んで食べて頂いている。	ご飯は事業所で炊くが、昼食と夕食のおかずは給食業者の宅配を頼んでいる。利用者のペースに合わせて食事を摂っており、早く食べ終わった利用者は、訪問マッサージ師の治療を受けていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に栄養補助食品が必要な方、最低水分摂取量が決まっている方には繰り返し申し合わせている。他にコーヒーにこだわりがある方には家族様にお願いしてこだわりのコーヒーを提供していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝たきりの方などは全介助で口腔ケアをさせてもらっている。他の自分でできる方は声掛け確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員ではないが排泄表を作って間隔を掴むようにしている。また寝たきりの人にはその排泄表が褥瘡予防にもなっている。尿便意がいつまでもあるように昼間立たれたときにトイレ誘導している。	寝たきりの利用者もおり、褥瘡予防を排泄支援の延長として考えて支援している。排泄表によってパターンを把握し、適切な声掛けや誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録に排便チェックがあり、それで便秘で無いかチェックする。副食は外部委託だがおやつは時々手作りで繊維系の多いイモ類を使うことが多い。ひどい便秘にはナースとクーターが対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ハウスは月水金が入浴日になっている。大方の利用者様の生活習慣では夜入っておられたので夜にしたいが現状では困難である。拒否の強い方はケアセンターの方で機会を捉えて2施設で協力している。	ホームの一般浴槽では対応が難しいと思われる数名の利用者が、隣の小規模多機能事業所の機械浴槽を使って入浴支援を受けている。週に3回の入浴が基本である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同の生活の為に21時消灯となっているが利用者様によってはドラマに夢中になって夜中までみておられることがあるが、多少柔軟性を持たせている。2時間ごとの巡視で安全を見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の自立の方でも確認させていただいている。それとなく薬のの効能を話題にして名前と日時を確認させてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日曜の礼拝出席を希望しておられる方に教会の役員さんと施設とで支援している。秋の自治会の作品展に出品するための編み物や工作に余念がない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員とは行かないがセンターで自治会主催のカラオケ大会に出たい人が有り、応援に皆様と出掛けたり、外食の希望を一人一人聞いてメニューがそろってほしい所に皆様おつれしている。また天気を見て散歩にお連れして歌やおやつで過ごして頂く。参加しない自由もある。	利用者の意向に沿うことを意識し、外出支援に力を入れて取り組んでいる。外出を通して地域との交流も活発になってきており、効果が目に見えて出てきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金やケータイは施設で遠慮して頂いている。ハウスは家族から預かり金を預かり、床屋さんや美容院、医療費、薬代、日常の物を購入している。電話は施設の子機を使ってもらうことにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイの所持は施設で遠慮して頂いている。そのかわり施設の子機を使ってもらうことにしている。手紙のやり取りはされている。ある方は教える方からや		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間はシンプルで小ざっぱりしていること、掲示する物や場所は決められており、その範囲内でしている。バス、トイレは常に感染症を予防する観点から清潔にするよう申し合わせている。	ホームの食堂兼居間は日常的な生活の場となっており、併設の小規模多機能事業所へ出かけて行って非日常(イベント、行事等)を満喫することも多い。さつま芋パーティーにも数名が参加しており、双方の行き来は自由である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部分で早朝のひと時利用者様らと洗濯ものたたみにおしゃべりで賑やかになる。ほとんど胃ろうで寝たきりの方にはトミのお茶やプリンを持って訪室している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やお孫さんの写真また亡くなったご主人の写真を大事に置いておられる。全盲の方は点字の本や好きな編物や使い慣れたバッグが覚えにしている位置に置いてある。	居室には洗面台が設置されており、洗顔、化粧、口腔ケア等に有効に利用されている。定番ではあるが、ほとんどの居室に家族の写真が飾られており、目の不自由な女性利用者は点字の書籍を持ち込んでいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、リビング、また手すりの位置など全盲の方がおられるので空間を認識して頂けるようにテーブルや腰かけの位置など変えないようにしている。		